

別紙 7 - 7

原価計算 練習問題解答用紙

	学年	組	番
名前			

第7章

1.

#1 原価計算表

直接材料費	直接労務費	直接経費	製造間接費	製造原価

#2 原価計算表

直接材料費	直接労務費	直接経費	製造間接費	製造原価

2.

直接作業時間法
機械運転時間法
直接材料費法
直接労務費法
直接費法

**例 1** 次の資料によって，製造部門費予定配賦表を作成し，原価計算表 #121 に記入しなさい。

① 1年間の製造部門費予算額および基準操業度(直接作業時間)

	第 1 製造部門	第 2 製造部門
1年間の製造部門費予算額	¥399,000	¥315,000
1年間の基準操業度	2,100時間	3,000時間

② 実際直接作業時間

製造指図書番号	第 1 製造部門	第 2 製造部門	完成日
#121	50時間	60時間	9月20日
#122	40 "	80 "	(未完成)
#123	90 "	80 "	(未完成)

例1で，製造部門費予定配賦表の作成について確認しましょう。

**例 2** 例 1 の製造部門費予定配賦表にもとづいて，製造部門費を予定配賦する仕訳を示しなさい。

製造部門費予定配賦表

令和〇年9月分

令和〇年	製造指図書番号	第 1 製造部門			第 2 製造部門		
		予定配賦率	配賦基準(直接作業時間)	予定配賦額	予定配賦率	配賦基準(直接作業時間)	予定配賦額
			180	34,200		220	23,100

例2で，製造部門費予定配賦表にもとづく仕訳について確認しましょう。

別紙 8 - 3

**例 3** 次の資料から、部門費配分表を作成しなさい。

製造間接費総額 ¥60,000

① 部門個別費

費目	第1製造部門	第2製造部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門	合計
間接材料費	¥ 780	¥ 220	¥ 4,000	¥ 600	—	¥ 5,600
間接賃金	¥ 8,000	¥ 1,400	¥ 2,000	¥ 1,800	¥ 1,200	¥ 14,400
					合計	¥ 20,000

② 部門共通費

費目	金額	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
給料	¥20,000	従業員数	16人	24人	4人	4人	2人
建物減価償却費	¥16,000	床面積	360㎡	320㎡	60㎡	40㎡	20㎡
保険料	¥4,000	機械帳簿価額	¥70,000	¥20,000	¥5,000	¥5,000	—
合計	¥40,000						

例3で、部門費配分表の作成について確認しましょう。

別紙 8 - 4

**例 4** 例3における部門費配分表にもとづいて、製造間接費を各部門に配分するための仕訳を示しなさい。

例4で、部門費配分表にもとづく仕訳について確認しましょう。

別紙 8 - 5

**例 5** 例 3 の部門費配分表と次の補助部門費の配賦基準にもとづいて、直接配賦法による部門費振替表を作成しなさい。

補助部門費	配 賦 基 準	第 1 製造部門	第 2 製造部門
動力部門費	動力消費量 (kW数×運転時間)	20kW × 150時間	10kW × 200時間
修繕部門費	修 繕 回 数	8 回	8 回
工場事務部門費	従 業 員 数	16人	24人

例5で、部門費振替表の作成（直接配賦法）について確認しましょう。

別紙 8 - 6

**例 6** 例 5 における部門費振替表(直接配賦法)にもとづいて、補助部門費を製造部門に振り替えるための仕訳を示しなさい。

例6で、部門費振替表にもとづく仕訳（直接配賦法）について確認しましょう。

別紙 8 - 7

**例 7** 例 3 の部門費配分表と、次の補助部門費の配賦基準にもとづいて、相互配賦法による部門費振替表を作成しなさい。

補助部門費	配賦基準	第 1 製造部門	第 2 製造部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
動力部門費	動力消費量 (kW数×運転時間)	20kW×150時間	10kW×200時間	—	10kW×100時間	—
修繕部門費	修繕回数	8回	8回	3回	—	1回
工場事務部門費	従業員数	16人	24人	4人	4人	(2人)

例7で、部門費振替表の作成（相互配賦法）について確認しましょう。

別紙 8 - 8

**例 8** 例 7 における部門費振替表(相互配賦法)にもとづいて、補助部門費を製造部門に振り替えるための仕訳を示しなさい。

例8で、部門費振替表にもとづく仕訳（相互配賦法）について確認しましょう。

**例 9** 例 1 の製造部門費予定配賦表にもとづいて配賦した予定配賦額と、例 7 により算出した実際製造間接費の差額を、製造部門費配賦差異勘定に振り替える仕訳を示しなさい。

製造部門費予定配賦表

令和〇年 9 月分

令和 〇年	製造指図書 番号	第 1 製造部門			第 2 製造部門		
		予定 配賦率	配賦基準 (直接作 業時間)	予定 配賦額	予定 配賦率	配賦基準 (直接作 業時間)	予定 配賦額
			180	34,200		220	23,100

例9で、製造部門費配賦差異の処理について確認しましょう。



別紙9-1

**例 1** 次の資料から、139ページの単純総合原価計算の手続き

①~⑤にもとづいて、①当月製造費用 ②総製造費用  
④完成品原価 ⑤製品単価を求めなさい。

ア 当月材料費 ¥520,000

当月労務費 ¥915,000

当月経費 ¥427,000

イ 月初仕掛品原価 ¥318,000

ウ 月末仕掛品原価 ¥380,000

エ 当月完成品数量 600個

例1で、単純総合原価計算の手続きについて確認しましょう。

別紙9-2

**例 2** 次の資料によって、月末仕掛品原価を平均法を用いて計算しなさい。ただし、素材は、製造着手のときにすべて投入されるものとする。

① 生産データ

月初仕掛品 200個(加工進捗度25%)

当月投入 800個

合計 1,000個

月末仕掛品 400個(加工進捗度50%)

完成品 600個

例2で、平均法による月末仕掛品原価の計算①について確認しましょう。

別紙9-3

**例 3** 例2の資料によって、月末仕掛品原価を平均法を用いて計算しなさい。ただし、素材が、製造の進行に応じて投入され、素材費と加工費の加工進捗度は、同じものとする。

例3で、平均法による月末仕掛品原価の計算②について確認しましょう。

別紙9-4

**例 4** 次の資料によって、月末仕掛品原価を先入先出法を用いて計算しなさい。ただし、素材は製造着手のときにすべて投入されるものとする。

① 生産データ

月初仕掛品	200個	(加工進捗度25%)
当月投入	<u>800個</u>	
合計	1,000個	
月末仕掛品	<u>400個</u>	(加工進捗度50%)
完成品	<u>600個</u>	

② 月初仕掛品原価 **¥184,000**

内訳 (素材費 **¥96,000** 加工費 **¥88,000**)

③ 当月製造費用 **¥1,860,000**

内訳 (素材費 **¥360,000** 工場消耗品費 **¥110,000**)  
(労務費 **¥940,000** 経費 **¥450,000**)

例4で、先入先出法による月末仕掛品原価の計算①について確認しましょう。

別紙 9 - 5

**例 5** 例 4 の資料によって、月末仕掛品原価を先入先出法を用いて計算しなさい。ただし、素材が、製造の進行に応じて投入され、素材費と加工費の加工進捗度は、同じものとする。

例 5 で、先入先出法による月末仕掛品原価の計算②について確認しましょう。

別紙 9 - 6

**例 6** 148 ページの例 4 について、単純総合原価計算表を作成しなさい。

例 6 で、単純総合原価計算表について確認しましょう。

別紙 9 - 7

**例 7** 例 6 の単純総合原価計算表にもとづいて、総勘定元帳の記入に必要な仕訳を行い、各勘定に記入しなさい。

例 7 で、単純総合原価計算表にもとづく仕訳について確認しましょう。

別紙 9 - 8

**例 8** 次の資料から、等級別総合原価計算表を作成しなさい。ただし、等価係数は、製品 1 個あたりの重量を基準として定め、3 級製品の等価係数を 1 とする。

① 月初仕掛品原価 ¥250,000

② 当月製造費用 ¥1,600,000 (内訳：材料費 ¥500,000  
労務費 ¥650,000 経費 ¥450,000)

③ 月末仕掛品原価 ¥350,000

④ 完成品数量および製品 1 個の重量

製品	製品 1 個の重量	完成品数量
1 級製品	600 g	400 個
2 級製品	400 〃	500 〃
3 級製品	200 〃	800 〃

例 8 で、等級別総合原価計算表の作成について確認しましょう。

**例 9** 例8について、総勘定元帳の記入に必要な仕訳を行い、各勘定に記入しなさい。

例9で、等級別総合原価計算表にもとづく仕訳について確認しましょう。

**例 10** 次の資料から、組別総合原価計算表を作成しなさい。ただし、素材は製造着手のときにすべて投入されているものとし、組間接費は各組の直接労務費を基準として配賦する。また、月末仕掛品原価の計算は平均法によること。

①生産データ

	A組	B組
月初仕掛品	150個 (40%)	400個 (25%)
当月投入	<u>950個</u>	<u>1,600個</u>
合計	1,100個	2,000個
月末仕掛品	<u>100個 (50%)</u>	<u>200個 (50%)</u>
完成品	<u>1,000個</u>	<u>1,800個</u>

( )は加工進捗度を示している。

例10で、組別総合原価計算表の作成について確認しましょう。

**例 11** 例10について、総勘定元帳の記入に必要な仕訳を行い、各勘定に記入しなさい。

例11で、組別総合原価計算表にもとづく仕訳について確認しましょう。

別紙9-12

原価計算 練習問題解答用紙

	学年	組	番
名前			

第9章

1.

平均法による計算

--

先入先出法による計算

--

2.

単純総合原価計算表

摘 要	素 材 費	加 工 費	合 計
当 月 製 造 費 用			
材 料 費			
労 務 費			
経 費			
計			
月 初 仕 掛 品 原 価			
計			
月 末 仕 掛 品 原 価			
完 成 品 原 価			
完 成 品 数 量	個	個	個
製 品 単 価	¥	¥	¥

別紙10-1

**例 1** 次の資料により、上の計算手続きを参考にして、工程別総合原価計算表を作成しなさい。

① 生産データ

	第1工程	第2工程
完 成 品	1,500個	1,400個

② 工程および補助部門の個別費

第1工程	¥275,000	第2工程	¥162,000
補助部門	¥60,000		

例1で、工程別総合原価計算表の作成①について確認しましょう。

別紙10-2

**例 2** 次の資料により、工程別総合原価計算表を作成しなさい。  
ただし、素材は各工程において製造着手のときに投入される。また、月末仕掛品原価の計算は平均法によること。

① 生産データ

	第1工程	第2工程
月初仕掛品	100個(50%)	200個(25%)
当 月 投 入	1,000個	1,000個
合 計	1,100個	1,200個
月末仕掛品	100個(50%)	400個(20%)
完 成 品	1,000個	800個

( )は加工進捗度を示している。

例2で、工程別総合原価計算表の作成②について確認しましょう。

別紙10-3

**例 3** 例2についての仕訳を行い、下記の各勘定に記入しなさい。

例3で、工程別総合原価計算表の仕訳について確認しましょう。

別紙10-4

**例 4** 例2の資料にもとづき、次の①②の取引の仕訳を示しなさい。

- ① 第1工程完成品は、外部に販売できるものなので半製品としている。なお、当月中の第1工程完成品は¥1,210,000(@¥1,210 1,000個)であった。
- ② 当月中に、第2工程に投入した第1工程完成品は、800個であった。第1工程半製品勘定は、前月繰越高が¥222,000(@¥1,110 200個)あり、払い出しは先入先出法によっている。

例4で、半製品がある場合の記帳について確認しましょう。

例題 10 - 5

原価計算 練習問題解答用紙

	学年	組	番
名前			

第 10 章

1.

①	(借)		(貸)	
②	(借)		(貸)	
③	(借)		(貸)	

2.

工程別総合原価計算表

令和〇年 11 月分

摘 要	第 1 工 程	第 2 工 程
工 程 個 別 費		
素 材 費	411,000	283,000
労 務 費	330,000	221,500
経 費	120,000	97,000
部 門 共 通 費 配 賦 額	63,000	37,500
補 助 部 門 費 配 賦 額	52,500	36,000
前 工 程 費	—	( )
当 月 製 造 費 用	( )	( )
月 初 仕 掛 品 原 価	( )	428,000
計	( )	( )
月 末 仕 掛 品 原 価	( )	221,000
工 程 完 成 品 原 価	( )	( )
工 程 完 成 品 数 量	1,400個	1,200個
工 程 完 成 品 単 価	( ¥ )	( ¥ )

別紙 1 1 - 1

**例 1** 次の資料によって、月末仕掛品原価を平均法を用いて計算しなさい。ただし、原料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。なお、減損は製造工程の始点で発生している。

① 生産データ

月初仕掛品	200kg(加工進捗度60%)
当月投入	<u>800kg</u>
合計	1,000kg
月末仕掛品	<u>140kg(加工進捗度50%)</u>
減損	<u>20kg</u>
完成品	<u>840kg</u>

例1で、減損が製造工程の始点で発生した場合について確認しましょう。

別紙 1 1 - 2

**例 2** 次の資料によって、月末仕掛品原価を平均法を用いて計算しなさい。ただし、原料は、製造着手のときにすべて投入されるものとする。なお、減損は、製造工程の終点で発生している。

例2で、減損が製造工程の終点で発生した場合について確認しましょう。

別紙 1 1 - 3

**例 3** 次の資料によって月末仕掛品原価を先入先出法を用いて計算しなさい。ただし、原料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。なお、仕損じは製造工程の途中で発生し、それらはすべて当月投入分から生じたものである。また、仕損品の評価額は¥19,500(主として原料の価値)である。

例3で、仕損じの処理について確認しましょう。

別紙 1 1 - 4

**例 4** 副産物が第2工程で発生した。次の資料によって、仕訳を示しなさい。

副産物の見積売却価額	¥240,000
〃 見積販売費	〃 5,000
〃 見積保管料	〃 2,000

**例 5** 例4の副産物を¥235,000で売却し、代金は現金で受け取った。

例4と例5で、副産物の処理について確認しましょう。

別紙 1 1 - 5

**例 6** 第 1 工程において、作業くずが発生したので、これを  
¥38,000 と評価した。

例 6 で、作業くずの処理について確認しましょう。

別紙 1 1 - 6

原価計算 練習問題解答用紙

第 11 章

	学年	組	番
名前			

1.

--

2.

①	(借)		(貸)	
②	(借)		(貸)	
③	(借)		(貸)	
④	(借)		(貸)	
⑤	(借)		(貸)	

別紙12-1

**例 1** 上記に示す完成品原価月報にもとづいて、会計係が行う仕訳を示しなさい。

例1で、製品の完成（個別原価計算）について確認しましょう。

別紙12-2

**例 2** 当月の総合原価計算表の完成品原価は、¥3,400,000であった。会計係が行う仕訳を示しなさい。

例2で、製品の完成（総合原価計算）について確認しましょう。

別紙12-3

**例 3** 当月分の売上帳の合計額(全額掛け売り)が¥2,450,000であると販売係から報告があった。会計係が行う仕訳を示しなさい。

**例 4** 前ページに示す売上製品原価月報によって、会計係が行う仕訳を示しなさい。

例3,4で、製品の販売について確認しましょう。

別紙 1 2 - 4

原価計算 練習問題解答用紙

第 12 章

	学 年	組	番
名 前			

1.

①	(借)		(貸)	
②	(借)		(貸)	
③	(借)		(貸)	

別紙13-1

**例 1** 次の資料により、製造原価報告書・損益計算書(一部)を作成しなさい。

- ① 当期材料費 ¥3,220,000    当期労務費 ¥3,500,000    当期経費 ¥773,000
- ② 仕掛品 期首棚卸高 ¥401,000    期末棚卸高 ¥514,000  
製品 期首棚卸高 ¥520,000    期末棚卸高 ¥400,000
- ③ 売上高 ¥10,450,000

例1で、製造間接費を実際配賦している場合について確認しましょう。

別紙13-2

**例 2** 次の資料により、製造原価報告書・損益計算書(一部)を作成しなさい。なお、製造間接費は予定配賦しており、原価差異は売上原価に賦課すること。

- ① 直接材料費 ¥3,220,000    直接労務費 ¥2,400,000    直接経費 ¥205,000
- ② 製造間接費実際発生額 ¥1,668,000    製造間接費は、直接労務費の60%を予定配賦している。
- ③ 仕掛品 期首棚卸高 ¥401,000    期末棚卸高 ¥514,000  
製品 期首棚卸高 ¥520,000    期末棚卸高 ¥400,000
- ④ 売上高 ¥10,450,000

例2で、製造間接費を予定配賦している場合について確認しましょう。